東京医科大学八王子医療センター
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HACHIOJI MEDICAL CENTER

みどりの丘

緑の『街』が見つめる医療

193-0998
東京都八王子市館町 1163 番地
東京医科大学八王子医療センター
電話　042-665-5611（代表）
総合相談・支援センター
医療連携係
発行責任者　尾田　高志
第 274 号 2024 年 5 月 1 日発行

未来のがん医療を拓く:がん遺伝子パネル検査と最新治療法

臨床腫瘍科　科長　　青木　琢也

がん研究振興財団によるがんの統計 2023 によると男性で 66%、女性で 51%、つまり男性、女性ともにおおよそ２人に１人が一生のうちにがんと診断されると推定され、同様に 2021 年の死亡データに基づいて累積生涯がん死亡リスクを推定すると、男性で 26%、女性で 18%、つまり男性でおおよそ４人に１人、女性でおおよそ６人に１人ががんで死亡すると推定されます。そのため、がんは特別な病気ではありません。だれもが付き合っていく必要がある日常的な疾患になっています。これは高齢化とも関係していると思います。

最近のがん治療の進歩には目覚ましいものがあります。特に、がん遺伝子を詳細に調べて、がん発生のメカニズムから治療を行う「分子標的薬」とがん細胞が免疫応答をかわすのを阻止し、自らの免疫細胞でがんを攻撃するように誘導する「免疫チェックポイント阻害剤」は現代の癌治療において画期的な進歩となっています。さらに、がんに対する抗体に薬剤を付けた抗体薬物療法の新薬も乳癌、肺がんで注目を集めています。

「分子標的薬」は、がん細胞特有の分子を標的とすることで、正常な細胞への影響を最小限に抑えつつ、がん細胞のみを効果的に攻撃します。がん細胞に特有な遺伝子変異を特定するために役立てる検査として「がん遺伝子パネル検査」があります。標準治療終了見込みの固形癌、まれな癌、原発不明癌では保険適応で検査ができます。それ以外では、自由診療で行う場合もあります。

「分子標的薬」と「免疫チェックポイント阻害剤」というカテゴリーに分類される新薬は、近年、続々と開発され、臨床試験によりその有効性が証明されています。現在も発展途上ではありますが、特に進行がんや従来の治療法に抵抗性を示すがんに対して、新たな希望を提供しています。当院では、多くのスタッフとともに、一人ひとりの患者さんの病状のみならず生活スタイルにも合わせた治療を実現することを目指しています。私は、病気と長く付き合いながらも、生活の質を高めることが大切だと感じています。研究・開発・臨床試験を通じた進歩により、個別化された未来の医療は、患者さん一人ひとりのニーズに合わせた形で展開されていくことでしょう。